

P-3

戦前の日本の厚生運動に対するドイツ・イタリアの影響に関する研究 —機関誌『厚生の日』を中心に—

○中濱 健 [日本大学] △澤村 博 [日本大学]

キーワード：日本厚生協会 厚生の日 軍国主義 ファシズム KdF OND

日本厚生協会(以下、協会という)は1938年4月に厚生省の外郭団体として設立された。そこでは厚生運動の啓蒙などが実施された。その内容として、ラジオ体操、マスゲーム、集団旅行などが挙げられる。協会の機関誌『厚生の日』では、ドイツとイタリアの厚生運動の取り組みが頻繁に紹介されており、戦前の日本の厚生運動はドイツやイタリアの影響を強く受けたと考えられる。しかし、その内容は十分に明らかにされていない。

本研究では戦前の日本の厚生運動に、ドイツやイタリアの厚生運動がどのような影響を与えたのか、『厚生の日』を中心にその実態を明らかにすることを試みる。

P-4

子育て中の母親のQOLの向上(2)

—エアロビックダンスの運動強度に注目して—

○松永須美子 [南九州短期大学] 松永 智 [宮崎大学]

キーワード：子育て エアロビック

子育て中の母親の定期的なエアロビックダンスへの運動参加が心身の健康状態の向上に寄与し、母親のQOLの向上に大きく貢献することがわかってきた(松永2010)。

そこで本研究は、前回と同手法によるエアロビックダンスを用いて、運動中の心拍数、および主観的運動強度を基に運動強度の観点からエアロビックダンス運動が子育て中の母親のQOL向上に寄与しているか否かを検討するものである。また付随してアンケートを行った。測定の結果、被検者13名の平均心拍数は1分間当たり 128.2 ± 15.3 拍であった。これは心肺機能の維持・向上にも効果がある至適運動強度の範囲であった。主観的運動強度は「ややきつい」に相当するが、アンケートにより得られた実施したい運動として13名中10名が「かなり汗をかく運動」「疲労感が残る程度の運動」を挙げていることから、ニーズにあった運動強度といえるであろう。また、自分自身の満足感のみならず家族に与えた影響として「母親が元気で明るいことを家族も喜んでいる」など、被検者13名中10名において家族にも良い影響を与えているという解答があった。エアロビック活動を通して母親が生活の活力を得て、それが家庭に反映された結果と示唆される。